

松商剣道部 秀峰と勝負

100周年初の姉妹校対抗戦

松商学園高校と姉妹校の松本秀峰中等教育学校の両校剣道部による初めての対抗戦が20日、松本市県3の松商学園高の旧講堂で開かれた。明治43(1910)年の松商剣道部創部から一世紀以上の歴史を刻んだことを記念して企画され、両校の代表選手が実力を競い合った。

通常の団体戦より2人多い7人ずつで争われ、4分間の3本勝負で行われた。松商は次峰の森山貴紗さん(1年)と五将の野村葵さん(2年)がともに面を決めて勝ったのに対し、松本秀峰の副将・市岡佳樹君(5年)が面を決めて一つ返した。結果は松商が2勝1敗4引き分けで松本

秀峰に競り勝った。松商主将の笠井智貴君(2年)は「独特の緊迫感があり緊張したが勝つことができてうれしい」と喜んだ。松本秀峰の主将・山田慧君(5年)は「自分たちの剣道を見つめ直すよい機会になった」と振り返った。

両校の部員や学校関係者、保護者など約150人が観戦し、試合後には深志神社梅風閣(深志3)で記念式典も開かれた。対抗戦は今後、毎年開催する計画だ。松商を昭和35年度に卒業した剣道部OBで記念事業実行委員長の小林繁男さん(71)は「松本市大手5は、対抗戦の継続が両校の持続、発展の証しとして今後の伝統の礎になれば」と願っていた。(小岩井貴之)



係者、保護者など約1

白熱した試合を繰り広げられた松商と松本秀峰両校による初の剣道対抗戦